

イベントの通年化のための努力と 活動負荷の軽減による保全活動の継続

ながさわかんきょうほ ぜん
滋賀県：長沢環境保全の会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

人と生きものにぎわう水田環境を取り戻すこと

【経緯】

生産性の向上や農業経営の改善のための水路整備により、魚が水田に遡上しにくくなり、生息数が減少してしまった。そこで、琵琶湖湖岸地域の水田において、農業と生きものとの共生を目指し、水田の農業生産性を維持しながら魚の産卵・成育の場として再生させるために活動を開始した。



長沢環境保全の会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水田、農業排水路

【活用した事業等】農村景観・自然環境保全再生パイロット事業

【保全対象生物】ニゴロブナ、ナマズ、コイ等の魚類

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 環境保全施設の維持管理

①排水路全面魚道の設置、補修等

- ・全面魚道を設置、堰板の設置と水位管理、魚道の点検・維持管理

2. 魚類遡上調査、観察会の実施

①農家、子供会、長沢区民を対象とした魚類調査・観察会を実施

- ・平成 17 年度に県主催で開催した魚道・水田に遡上した魚類の調査・観察会の翌年から、当会主催による農家、子供会、長沢区民を対象とした魚類調査・観察会を、アドバイザー講師を招いて実施

3. 生物保全活動

①水田水位の調整

- ・魚類成育のためには、ある程度の水位が必要なため、水田の水位を通常より深水で管理



住民による魚道設置



魚道施設

○継続した活動でこんな効果が！！



観察会の様子

■在来生物種等の生育場所の再生

・水路においては複数魚種の遡上及び産卵を確認した。また、水田においてもフナやナマズの産卵・孵化、成長していることが確認されている。

■環境意識の向上や地域住民の交流

・観察会等の活動で、農業や自然の大切さを学ぶと共に地域の交流や家族の絆を深める機会となり、環境意識の向上にもつながっている。

■生産物のブランド化

・生きものに配慮した環境こだわり農業を実施し、「魚のゆりかご水田米」の認証を滋賀県から受けている。

○課題・苦労した点

■転作によるイベント開催不可

・地域全体で保全に対する機運が高まりつつあるところで、転作によって、イベントが開催できなくなる懸念があった。

■会員への負担増加

・活動によって会員である農家の負担が増加してしまった。

○工夫した点

■新たな魚道設置

・小さいながらも別路線の排水路に魚道を設置し、毎年魚のゆりかご水田や観察会に取り組めるようにした。（転作に対応）

■草刈作業の軽減

・排水路法面にカバープランツを植栽することで、雑草の繁茂を抑制している。

○活動の特徴！！

■新たな魚道設置と会員の作業負担の軽減

・イベントを毎年できるように、新たな魚道を設置したこと。そして、会員の作業負担を軽減するための策を講じたこと。これらの2点の行動が、継続した活動に繋がっている。



○団体の概要は？

- ・平成18年度に設立され、活動エリアは滋賀県米原市長沢地区（旧坂田村辺り）である。
- ・任意団体であり、人数は約30名（集落の各種団体も参画）。
- ・年間運営費は、補助金が約100%となっている。
- ・年間活動日数は、約10日である。

